

I-13 連続鋼床版の实用計算法

法政大学 正員 大地 羊三
○川田工業(株) ヶ 小神野 竹男

橋梁構造物の長大化に伴い、死荷重の軽減をはかつた鋼床版の架設が年々増加している。それとともに直交異方性板理論による鋼床版の解析もさかんである。実際の構造物は橋軸直角方向に対し、張出し部を含む連続型式が多いにもかかわらず単純梁型式と片持梁型式に分けて計算している。

A. I. S. C の Design Manual (1963) では単純梁型式にフーリエ級数を用いて解析しているが、フーリエ級数は不等向性の連続梁型式に適用出来ないで同じ性質を持つ円函数と超越函数の合成函数で表わす固有函数(固有振動モード)を用いて Sin 函数の代りに使つて級数に展開し、張出し部を含む連続型式に適用出来るようにした。

版の基本式は M. T. Huber により $D_x \frac{\partial^4 w}{\partial x^4} + 2H \frac{\partial^4 w}{\partial x^2 \partial y^2} + D_y \frac{\partial^4 w}{\partial y^4} = P(x, y) \dots (1)$ 一般に縦リブの場合、縦リブの剛度 D_y , ねじり剛度 H はデッキプレート の剛度 D_x に比較して等視出来る量であるから $D_y = H = 0$ とし、又荷重 $P(x, y)$ は x 方向に一連とし、 y 方向の ϕ の函数とすると(1)式は次の如く梁の微分方程式となる。 $D_x \frac{\partial^4 w}{\partial x^4} = P(\phi) \dots (2)$ 剛支系上の連続梁としての縦リブのモーメント及び反力の計算には(2)式を用いぬばよい。

梁の固有振動方程式は $\frac{d^4 w}{dx^4} - \phi^4 w(x) = 0 \dots (3)$ 但し $\phi^4 = \frac{m \bar{w}^2}{EI} \cdot l^4$, E ; ヤング係数, I ; 断面二次モーメント, m ; 梁の単位長当り質量, $\bar{w}$; 円振動数を表わす。

(3)式の一般解は $w(x) = A \sin \phi x + B \cos \phi x + C \sinh \phi x + D \cosh \phi x \dots (4)$

図-A に示す如く梁の a 端のたわみ, たわみ角, 曲げモーメント,

剪断力をそれぞれ w_a, θ_a, M_a, S_a とすると(4)式は $w(x) = w_a \cdot C_1(\phi x) + \frac{\theta_a l}{\phi} S_1(\phi x) - \frac{M_a l^2}{EI \phi^2} C_1(\phi x) + \frac{S_a l^3}{EI \phi^3} S_1(\phi x) \dots (5)$

但し $C_{\pm}(\phi x) = (\cosh \phi x \pm \cos \phi x)/2$, $S_{\pm}(\phi x) = (\sinh \phi x \pm \sin \phi x)/2$, 又、 b 端のたわみ, たわみ角, 曲げモーメント, 剪断力をそれぞれ w_b, θ_b, M_b, S_b とし $w(x)_{x=a}$, $w(x)_{x=b}$ の関係式 $w_b = w(l)$, $\theta_b = w'(l)$, $M_b = w''(l)$, $-S_b = w'''(l)$ を用いて整理しマトリックスの形で表わすと次の如くなる。

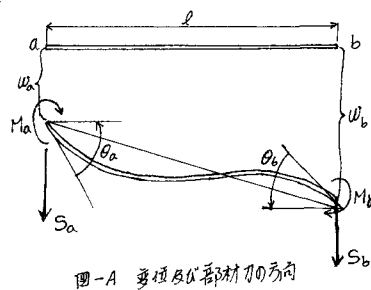


図-A 変位及び部材力の方向

$$\begin{pmatrix} M_a \\ M_b \\ S_a \\ S_b \end{pmatrix} = \frac{EI l}{(1 - \cos \phi l \cosh \phi l) l_i} \begin{pmatrix} \zeta_{ai} & \zeta_{bi} & \eta_{ai} & -\eta_{bi} \\ \zeta_{bi} & \zeta_{ai} & \eta_{bi} & -\eta_{ai} \\ \eta_{ai} & \eta_{bi} & (\eta_{ai}^2 \zeta_{ai} - (\eta_{bi}^2 \zeta_{bi}) \\ -\eta_{bi} & -\eta_{ai} & (\eta_{bi}^2 \zeta_{bi} - (\eta_{ai}^2 \zeta_{ai}) \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \theta_{ai} \\ \theta_{bi} \\ w_{ai} \\ w_{bi} \end{pmatrix} \dots (6)$$

ここに, $\zeta_{ai} = \cosh \phi l_i \cdot \sinh \phi l_i - \sinh \phi l_i \cdot \cos \phi l_i$, $\zeta_{bi} = \sinh \phi l_i - \sin \phi l_i$, $\eta_{ai} = \sinh \phi l_i \cdot \sinh \phi l_i$, $\eta_{bi} = \cosh \phi l_i - \cos \phi l_i$, $\zeta_{ai} = \cosh \phi l_i \cdot \sinh \phi l_i + \sinh \phi l_i \cdot \cos \phi l_i$, $\zeta_{bi} = \sinh \phi l_i + \sin \phi l_i$, l_i ; 支間長

又、(6)式を支梁モーメントの境界条件 $(\alpha, \beta) \cdot \begin{pmatrix} M_a \\ M_b \end{pmatrix} = 0$, 張出し部の剪断力 $S_a = S_b = 0$ を

